

# 「末廣亜矢子特別レッスン教室」開かれる！

## 合発にむけて「合発曲」2曲進化！！

7月29日

□7月29日(金)18:00～20:20ねむかホールで第8回目の「末廣(吉田)亜矢子先生特別レッスン」が開かれました。佃さんの体操のあと、30分ほど時間をかけて「末廣式足モミ全身声域広げストレッチ」をしっかりとした後、今日は合発曲「わたらの朝は海からはじまる」のレッスンを受けました。

この曲への基本的な姿勢・曲想の捉え方、声の出し方・詞の出し方について、1小節ずつ・ひとこと毎のアドバイスを受け、この曲は大きく進化しました。



また合発曲「白樺」は前回の吉田教室で指導を受けた曲ですが、再度各パートの音量のバランスを含めて表現の仕方を中心に最後までしっかりしたボリュームと響きを持った心と声で歌いきることを強調されました。ピアノ伴奏は近藤静さん。参加者は全35名でした。また今日は2名の女性が訪問され、昂のレッスンの歌に感心されていました。

# 昇第5週定例レッスン 合発曲「白樺」・ 「わしらの朝は」と「ふるさとの四季」「鶴」に 力が入りました！

7月31日

□7月31日(日)14:00~16:50 ねむかホールにて、昇定例レッスンが行われました。佃さんの体操と千秋さんのヴォイストレーニングのあと、本並先生の指揮で、一昨日の「末廣亜矢子レッスン」を踏まえて、「白樺」から「わしらの朝は」の合発曲の歌い込みを行いました。合唱発表会では、最初に「白樺」を、次に「わしらの朝は」の順番で歌ってみるとして、その練習も兼ねてレッスンしました。ピアノ伴奏は近藤静さん。参加者は全36名でした。



## 連絡事項・報告事項等

- (1) **第11回昇コンサートについて**遅くとも来年末までに実施するためには、改装工事期間が確定している「クレオ中央」は使えず、至急適当な会場を探し、決めることができるよう努力することになりました。
- (2) **「第6回団内コンサート」を予定通り行います。**

8月28日(日)14:00開演。出演者リハーサルを8月14日(日)13:00~17:30(予定)(順番は決定)。パート別リハーサルは8月28日(日)13:00~13:30。出演者は「司会文」の提出を！

(写真はレッスン終了後、団内コンサートで披露する曲のパートレッスンをするT1パートのメンバー)



- (3) **市内南部合唱発表会** 8月21日(日)  
東成区民センター 集合11:00 夏服使用。  
リハーサル:11:30、本番:15:18

## 「わしらの朝は」 一口レッスンメモ(7月29日レッスンより)

●最初に：この曲は漁師の歌！「スーツにネクタイを付けたサラリーマン」の声で歌っている感じがする。胸まで長靴履いてねじり鉢巻きして、漁船の上で網に入った魚と格闘している漁師の男のイメージのままの声を出そう！「浪速の漁師のオッサン」になりきろう！

### 1小節～14小節 BS・BRの「イヨーシドットォ」

●最初の出だしの1小節の「イヨーシドットォ」「イヨーシドットォ」f(フォルテ)むちゃくちゃ大きく出して！おなかの底を開放して！最初の「イヨーシドットォ」のエネルギーをどう出すかにこの曲はかかっている！出だしに気合を入れて！

T1が「おおーい」と歌い出す次の1小節の「イヨーシドットォ」「イヨーシドットォ」デクレッシェンド・P(ピアノ)で！その差をつける。気持ちは弱くせずに「気」のパワーは減らさない！（「意気・やる気・向こう意気」の「気」）（声は強く響かせて）

●同じ言葉が続く。同じ音量・リズム・音程で飽きるかもしれないが、「イヨーシドットォ」の全部を一つ一つ新たにやってみる気持ちでうたって！

最初の「イヨーシドットォ」でこの曲は決まる！しっかり出して！

最初の「イヨーシドットォ」の「イヨー」が大事！しっかりとF(フォルテ)で！「ヨー」は口の中の舌をはじいて！おなかふくらまして！開放した声で！

### 1小節～16小節：T1・T2

T1：1段目「6小節～」「おおーい おおーい おおーおい」

mfで大きくなりすぎない。

3回目の「おおーい」に「おおーおい」と「おい」くどく言う。

まだ「スーツの紳士の声やね・・・」「スーツ無し！冷暖房無し！ですよ。漁師の姿と気持ちで！波にも負けない呼び声で！身体で！“おっさん”になりきって声を出そう！まだ紳士で遠慮した声になっている！声のエネルギーが“サー”と流れている感じでなく、fはもちろんだがpでもエネルギーを出して。pでも声のエネルギー抜かないで。声が伸びて出ている気合の入った声で。張り上げる声とか、気張った声ということではない。声に気持ちが出ている、“気”が出ている、エネルギーが感じられる、という意味で！

3段目T1：「うみなりーがー」：オッサンの声で！最初の「うみなり」ははっきりと高めの響く声でしっかりと！

T1・T2：「うしないたくーないーふるさどー」4段目「ここにはーわしらのーうみがある」

(3連音符：1拍が(16分音符+8分音符+16分音符)になっているところ：“タターンタン”アクセントしっかりつけて、真ん中の母音をしっかり言う。

「うしない **た**く**な**い **ふ**る**さ**とー」：

「た**く**ない」は「た**く**う**な**い」、「ふる**さ**とー」は「ふる**う**さ**と**ー」

「**こ**こ**に**は **わ**し**ら**のー」：

「ここ**に**は」は「**こ**こ**お**には」、「わし**ら**のー」は「**わ**し**い**ら**の**」と

「わし**ら**のー **う**み**が**あ**る**ー」：「のー」から「うみ」の「う」へ声を飛ばして！ No.567(3/5)



15 小節～「イヨーシドットォ イヨーシドットォヨー」：「紳士の声」になっている。

北島三郎の「祭りだ！」が良い！「ドットォ」の声しっかり出して！

16 小節「ドットォヨー」おなかの力・舌の力を出して、「ヨー」向こうへ声を飛ばそう！声は出し終わっても“気”は残っている「ヨー」。

## 2 頁目：17 小節～22 小節

BS 主旋律「くらいおもいそらにたいようが～

生きてきた 生きてきた」

●タイでつないでいることばはすべて言い直す。母音を伸ばす。

「くらいおもいそらに」>「くらいおもいいそらに」

「たいようがのぼれば」>「たいようがあのぼおれば」

「わしらのうみ」>「わしらのおうみ」

「みんなこのうみで生きてきた生きてきたー」>「みんなこのうみで生きてきた生きてきたあー」

●「くらいおもいそらに」から、音低いから、おなかで支えてしっかり声出して！

●BSは遠慮せずに自分が主人公！堂々と歌って下さい！前に出て歌う感じで！

T 1・T 2・BR：「WU -WU -WU -WU -」

作者は各小節の頭に「WU-」を書き直している。ずっと同じ調子で延ばして歌うことは要求していない。1 小節目の「WU--」4 拍のあと、2 小節目の「WU--」から新たに「WU-」をスラーで続けて、いったん切って、やり直して、また新たに「WU-」歌うことを要求している。

BS の詞をしっかりと聴きながら歌う。頭の“気”を全部使って、のど使わない。

BS の詞がしっかりと聞こえるように音量をよく考えて出して！自分の声聞こえなくてよい。BS の詞のタイミングにハミングの音のタイミングを合わせて歌って！特にT 1・T 2 の上の声は少し控えめに！上が大きいとBS 歌いにくい。上のパート控えめでも良く聞こえているから・・

## 22 小節～ 「わしらのあさはーたいようよりもーさきにはじまるー」

●譜面に「はればれと」との表示がある。この小節以降は”気”をワッと晴らして上向きに変えて“気”で歌ってほしい！

●「わしらのあさはー」：「あさ」がぼけて聞こえる。「わしらの」の「の」を弱くして「あさ」をはっきり出す。「の」を大きく歌うと罰金をいただきますよ！

●「たいようよりも」：「たいよう」の「よ」、「よりも」の「よ」と2つの「よ」が続く。

「たいよう」ははっきり歌って、次の「よりも」の「よ」もはっきりとしっかり出して！

●「はじまるー」：「は」「じ」「ま」「るー」とひとつづつはっきりと！「るー」は改めて言う。クレッシェンドで！「るー」にスラーの意味がある。少しクレッシェンドかかる。「るー」の「うー」を少し揺らして表現を。

「るー」3 拍目切るとき、“スパッ！”と切る。ぼらぼらと切らない！「切り口良し！」で次の「おおーゆくぞー」へ！

## 3 段目 26 小節～：「おおーゆくぞー わしらのうみへ」

「ゆく」の「ゆ」は「いゆ」で早く言う。4 段目も同じ。

「わしらのうみへ」の「の」を弱くして「うみ」をはっきりと出す。「の」を強く歌うと「うみ」がぼやける。

## 4 段目 29 小節～：「おおーゆくぞー わしらのうみへ」

No.567(4/5)

3 段目の「おおーゆくぞー」がよかったから、4 段目の「おおーゆくぞー」はもっといい「おおーいくぞー」を聴く人は期待する。その気持ちを満たしてほしい。それを満たすためには、まず主役は「わしらのうみ」。「の」を弱く歌って「うみへー」をはっきりと強調する。

**37 小節～「ひきあげるーうおは うみからあがるーうおは」**

BR主旋律：「うお」の「う」は音程低いから聞きとりにくい。倍以上の音量を出す気持ちで、イメージ的に高く歌って、引き込めずに引き揚げて「うお」を歌う。

**39 小節～「どれもはじけるいきのいいやつ」**：「いきのいいやつ」の「いい」ははっきりと「い」「い」を出す。

「はじける」の「は」は擦れる音で！はっきりと！

**41 小節～「ふねーのへさきは おきへー」**

「ふねの」の「ふ」を「Fu」で長めに出す。「へさき」の「へ」。「ふ」も「へ」もはっきり言わないと詞の効果が薄い。「船の舳先」の詞が届くように。

「おきへ」「おきへ」「おきへ」「おきへ」「おきへ」「おきへ」：波がヴァン！ヴァン！ヴァン！と来るような感じで、各パート繋いで行って・・・

**45 小節の「おおーゆくぞー」**は 3 回目の「おおーゆくぞー」：もっと素晴らしく「ゆくぞー」にしてほしい！注意すべきところは 2 回目と同じ。

**65 小節「おおー」**：最後の f f もっと！声を飛ばす！

